

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 30 日現在

機関番号：34514

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531267

研究課題名(和文)「日本の伝統・文化の理解教育」における身体教材の開発 - 日本舞踊コアプログラム -

研究課題名(英文) Nihon Buyo-based core program: an attempt to develop an original educational physical material in "Japanese tradition and culture" education

研究代表者

畑野 裕子 (Hatano, Yuko)

神戸親和女子大学・発達教育学部・教授

研究者番号：80167585

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、「日本の伝統・文化」の理解教育における身体教材として、日本舞踊を基盤としたプログラムを作成し、その有用性を検証することである。

まず、「日本の伝統・文化」の教育分野において、「身体教材」あるいは「日本舞踊」をキーワードに文献を収集し、研究動向を解析した。そして、これらの情報を基にして、日本の伝統文化の一つである日本舞踊を中心に据えた教育プログラム、すなわち「日本舞踊コアプログラム」を作成し、これを用いて学生を対象とした授業を筆者自身が実践した。日本舞踊コアプログラムの教材としての有用性を、受講者の自由記述による回答や、筆者による体験的な省察を交えて総合的に検討した。

研究成果の概要(英文)：The aim of the present study is to develop a Nihon Buyo-based educational program for "Japanese tradition and culture" education and to evaluate its effectiveness as a teaching material.

First, the author searched databases including KAKEN by keywords of "Japanese tradition and culture", "physical materials" and "Nihon Buyo", extracted relevant reports, and analyzed a research trend among them. Second, based on the collected information, the author developed an educational physical material for "Japanese tradition and culture" education, in which Nihon Buyo was set as a representative of Japanese traditional culture, named "Nihon Buyo-based core program". This program was conducted for the author's practice in a class. Finally, the program was evaluated on its effectiveness as an educational material by the analysis of free comments from the trainees. The author's experience helped to qualitatively augment the study.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教科教育学

キーワード：日本の伝統・文化 日本舞踊

1. 研究開始当初の背景

新教育基本法における教育の目標には、新たに「伝統と文化を尊重」があげられている(市川ら, 2008)。このような観点から、近年の教育事業の動向をみると、都道府県の教育委員会レベルにおいて、学校設定科目に「日本の伝統・文化」を取り入れる試みが始まっている。

このような教育動向における課題を解決すべく、平成 17~19 年度科学技術研究費基盤研究(C)「日本の伝統的文化の教材開発に関する実践的研究 - 日本舞踊の身体技法を中心とした保健体育科・総合的学習の試み -」を実施した。その中で、教育事業の動向として、平成 17 年度東京都教育委員会「日本の伝統・文化理解教育推進事業」、平成 19 年度から兵庫県教育委員会による県立高等学校設定科目「日本の文化」の普及等を明らかにしたが、体育科での例示は武道だけであった。しかし、日本舞踊も、他に例示されている伝統芸能(能・狂言、歌舞伎、人形浄瑠璃)と同等に、知見のある研究者・教育者の協力によって検討する必要があると考えた。

そこで、本研究自身は、日本舞踊の身体技法を中心とした日本の伝統的文化の教材開発を実施し、これまでに研究者が取り上げなかった日本の伝統的文化日本舞踊教材について、中等教育における教材開発を検討した。それまで、本研究のような日本の伝統文化の求道者による、理論・実践両面からの総合的なアプローチや分析を用いた実践的研究はあまりみられず、新たな試みであった。そして、先行研究として、日本の伝統的文化の教材開発の出発点の一つとなる成果をあげている。

その研究の概要と実践については、平成 20~22 年科学技術研究費基盤研究(C)「日本舞踊を教材とした『日本の伝統・文化』の理解教育に関する教員研修プログラム開発」において検討している。未だ、よさこいソーランを日本の伝統的舞踊と錯覚して、国際交流している現職教員が多い中、今後、何が伝統文化で、何が現代の文化であるのか、各々の特徴とその相違を理解した上での、日本の伝統と文化の理解教育が必要と思われた。

さらに、今回の学習指導要領の改訂(文部科学省, 2008)においては、中学校体育科の 1・2 年生では武道が必修となり、このような「伝統と文化を尊重」する流れを反映したものとなっている。しかし、武道と同様に必修化されたダンスに関して、学習内容の現状をみると、「伝統と文化を尊重」という視点での検討が、十分反映されているとは思われない。

従って、体育科の内容である運動文化のカテゴリーにおいて、今後、日本の伝統・文化に関わる身体活動についても、さらなる検討が必要と思われる。周知の通り、これまで、体育科における武道に関しては、その研究や

実践報告は数多くなされている。しかし、邦舞については、学習指導要領において、フォークダンスとして日本の民踊が取りあげられているものの、それに関する報告は数少ない。さらに、邦舞として代表的な日本舞踊に関しては、学習指導要領の内容でないため、その実践的な研究報告は、わずかである。

そこで、本研究では、日本の伝統・文化に関わる身体活動について、邦舞の中でも特に日本舞踊に関する教育実践の動向を、文献・資料によって検討することとした。さらに、それらを基にして、「日本の伝統・文化の理解教育」における身体教材の開発として、「日本舞踊コアプログラム」を作成する必要があると考えた。

2. 研究の目的

以上のような研究の学術的背景から、本研究の目的は、多様な文化を尊重できる態度や資質を育む教育を目指し、「日本の伝統・文化」の理解教育における身体教材の開発として、「日本舞踊コアプログラム」を作成し、実践的に検証することである。

3. 研究の方法

本研究での具体的な研究計画・方法は 3 年にわたり、本研究課題を達成すべく、年度ごとに、前年までの研究成果を反映させながら、次のような研究計画・方法を展開する。

(平成 23 年度)

<「日本舞踊コアプログラム」作成のための資料検討>

「日本の伝統・文化」の理解教育、「身体教材」、「日本舞踊」とその教育に関する実践事例・資料等を収集し、検討する。(フィールドワークやインタビューを含む)

(平成 24 年度)

<「日本舞踊コアプログラム」作成のための追加資料、及び、日本舞踊における基本動作の解析を含めた所作資料の検討>

新たな資料を収集し、検討する。また、「日本の伝統・文化」としての「日本舞踊の基本所作」に関して、それらの動作学的メカニズムを検討する。

(平成 25 年度)

<「日本の伝統・文化」の理解教育における身体教材「日本舞踊コアプログラム」の作成と実践的検証>

前年度までの研究をもとに、「日本舞踊コアプログラム」を作成し、実践的に検証する。

4. 研究成果

本研究の目的は、多様な文化を尊重できる態度や資質を育む教育を目指し、「日本の伝統・文化」の理解教育における身体教材の開発として、「日本舞踊コアプログラム」を作成し、実践的に検証することである。

(平成 23 年度)

本年度は、初年度として、「日本の伝統・文化」の理解教育、「身体教材」、「日本舞踊」とその教育に関する実践事例・資料等を収集した。その主なものをまとめると、次のようであった。

「日本の伝統・文化」の中でも、身体動作を中心とした学習指導内容を取り上げている学校・園の実践事例について明らかになった。例えば、幼稚園において、「だんじり」を継承していくための「だんじりごっこ」の取り組みや、「お茶ごっこ」の取り組み例がみられる。小学校においては、クラブ活動としての浄瑠璃の実践事例がみられる。中学校においては、「立腰」「黙想」の徹底、茶道、和の旋律によるダンスなどに取り組んでいる実践事例がみられる。また、武道の必修化に伴い、新学習指導要領に例示されている3種目(柔道、剣道、相撲)とは異なるが、「杖道」や「なぎなた」を保健体育科の授業に取り入れた授業研究事例もみられる。高等学校においては、県立高等学校演劇科における狂言の指導事例、府立高等学校の音楽の授業における「能・謡」のワークショップ事例、一部の都立高等学校における専門家による日本舞踊の授業事例等、伝統芸能に関する実践事例が明らかになった。

さらに、近年のモーションキャプチャーを用いた工学的な日本舞踊の動作分析研究についても、その概要を確認することができた。このような実践事例・報告等の資料収集により、今後の『日本の伝統・文化の理解教育』における身体教材の開発「日本舞踊コアプログラム」の基礎となる貴重な資料を検討することができた。

(平成 24 年度)

本年度は、研究の2年目として、まず、初年度の結果をもとに、さらにその後に発表された新たな資料(「日本の伝統・文化」、「日本舞踊」とその教育に関する実践事例など)に関して、追加して収集できた。これらの結果については、国内外の学会等において発表することができた。

また、その収集した資料において、グローバル COE などの大型の研究プロジェクトで、高額な機器装置であるモーションキャプチャーを用いて、工学系の学識のある研究者を交えて総合的に日本舞踊の基本動作の解析・分析がなされていた。しかしながら、本研究では、教育における教材開発を目的としていることから、桁違いの費用を要する高価な機器を用いる工学的あるいは力学的な科

学分析とは一線を画し、教材開発に必要な知識・理解を深めるための動作解析を含めた所作資料の検討を当初から計画していた。

そこで、基礎動作資料作成のために、日本舞踊の基本的な所作(本研究者がこれまでに対象としていなかった未分析である動作)を取り上げ、熟練者を対象として、動作解析を試みた。具体的には、日本舞踊の基本的な所作である「足の運び」に上肢と頭部の振りを伴う身体動作(世にいう「東歩き」)に関して、計測部位やスティックピクチャーなどの分析を実施した。その結果、上肢と頭部の振りを伴う「足の運び」であっても、左右腸骨稜などの計測部位の変化が少ないことから、下半身の動作のぶれが少ないという特徴がみられた。また、「足の運び」における膝の動きは、例えば、右足を前に出した場合、左膝が右膝の後ろに入り込むなどの特徴がみられ、重心を低く保った「腰を入れる」動作に依拠していることが明らかになった。以上の結果については、「日本舞踊コアプログラム」の作成にあたり、動作およびその解説の参考とする。

(平成 25 年度)

本年度は、最終年度として、次のような研究を実施した。

前年度までに得られた実践資料や研究結果に基づいて、「日本の伝統・文化」理解教育の「日本舞踊コアプログラム」を作成し、そのプログラムの実践的検討を行った。具体的には、まず、「日本の伝統・文化」理解教育における、「日本舞踊コアプログラム」の試案を確認した。そして、そのコアプログラム試案について、大学院の授業における実践を試みた。さらに、そのプロダクトは、受講生の自由記述による回答等を基に、コアプログラムの成果を検討した。その際、本研究による和文化の求道者としての体験的な省察を交えながら、教育者・研究者として、総合的な実証を試みた。これらの研究結果については、国内外の学会等において発表した。

本研究で取り上げる「日本の伝統・文化の理解教育」を推進する、身体教材としての「日本舞踊コアプログラム」は、実践的検証の積み重ねが重要であり、伝統や身体文化の価値ある教育にも寄与し、今後ますます期待されるものとする。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

畑野 裕子、「日本事情教育」における日本舞踊の実践、舞踊教育学研究、査読無、第15号、2013、65-66

畑野 裕子、日本の伝統・文化に関わる身体活動 教育実践の動向を中心に、

舞踊教育学研究、査読無、第14号、2012、
27-28

〔学会発表〕(計9件)

畑野 裕子、日本の伝統・文化の理解教育における日本舞踊の実践事例、日本教育大学協会全国保健体育・保健研究部門第33回全国創作舞踊研究発表会、2013年12月21日、鳥取県民文化会館：鳥取大学主催

HATANO Yuko, A novel style of dance education in graduate school by incorporating traditional Japanese dance, AIESEP (International Association for Physical Education in Higher Education) 2013 International Conference, 2013年7月6日, J. Pilsudski University of Physical Education (ポーランド J.ピルスドスキ体育大学), 32頁,(査読有)

HATANO Yuko, New trends in the traditional culture education in Japanese school education: From the perspective of traditional dance in Japan, A joint conference of the Congress On Research in Dance (CORD) Special Topics and Dance Under Construction (University of California Dance Studies graduate student conference) Special Topics Conference: Tactical Bodies; The Choreography of Non-Dancing Subjects, 2013年4月21日, University of California, Los Angeles; UCLA, World Arts and Culture Department (アメリカ合衆国カリフォルニア, カリフォルニア大学ロサンゼルス校ワールド・アーツ・アンド・カルチャー学部), 8頁,(査読有)

畑野 裕子、「日本事情教育」における日本舞踊の実践、日本教育大学協会全国保健体育・保健研究部門第32回全国創作舞踊研究発表会、2012年12月22日、前橋市民文化会館：群馬大学主催

HATANO Yuko, Trends in the practice of education through physical education imbued with Japanese traditions and culture in school education- Centered in 2010 onward -, 8. Deutsch-japanisches Symposium, 2012年10月5日, Universität Münster(ドイツ連邦共和国ミュンスター大学), (査読有)

畑野 裕子、「日本文化理解教育」における日本舞踊の実践事例、日本体育学会第63回大会スポーツ人類学シンポジウム、2012年8月23日、東海大学

HATANO Yuko, A Thought about the Characteristics of Dance Education of Japanese Traditional Dance, The 6th International Sport Sciences Symposium on "Active Life", 2012年2月25日, 早稲田大学東伏見キャンパス

畑野 裕子、兵庫教育大学大学院における日本文化身体教材 - 日本文化理解教育プログラムとしての日本舞踊の試み -、和文化教育第8回全国大会兵庫大会、2012年1月8日、関西学院大学西宮聖和キャンパス

畑野 裕子、日本の伝統・文化に関わる身体活動 教育実践の動向を中心に、日本教育大学協会全国保健体育・保健研究部門第31回全国創作舞踊研究発表会、2011年12月17日、大分市コンパルホール：大分大学主催

〔図書〕(計1件)

HATANO Yuko, 中央大学出版会, Trends and Issues of Educational Programs on Japanese Tradition and Culture in School Education, in Das 7. Deutsch-Japanische Sportwissenschaftliche Symposium, Japan und Deutschland in der Globalisierung des Sports und der Sportwissenschaft, 2012, 159-173

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

畑野 裕子 (HATAN0, Yuko)
(神戸親和女子大学・発達教育学部・教授)
研究者番号 : 80167585

(2) 研究分担者

無 ()

研究者番号 :

(3) 連携研究者

無 ()

研究者番号 :